

「教育実践フィールド研究」講義(2008年5月21日)

# 「教育実践フィールド研究」の目的と構想

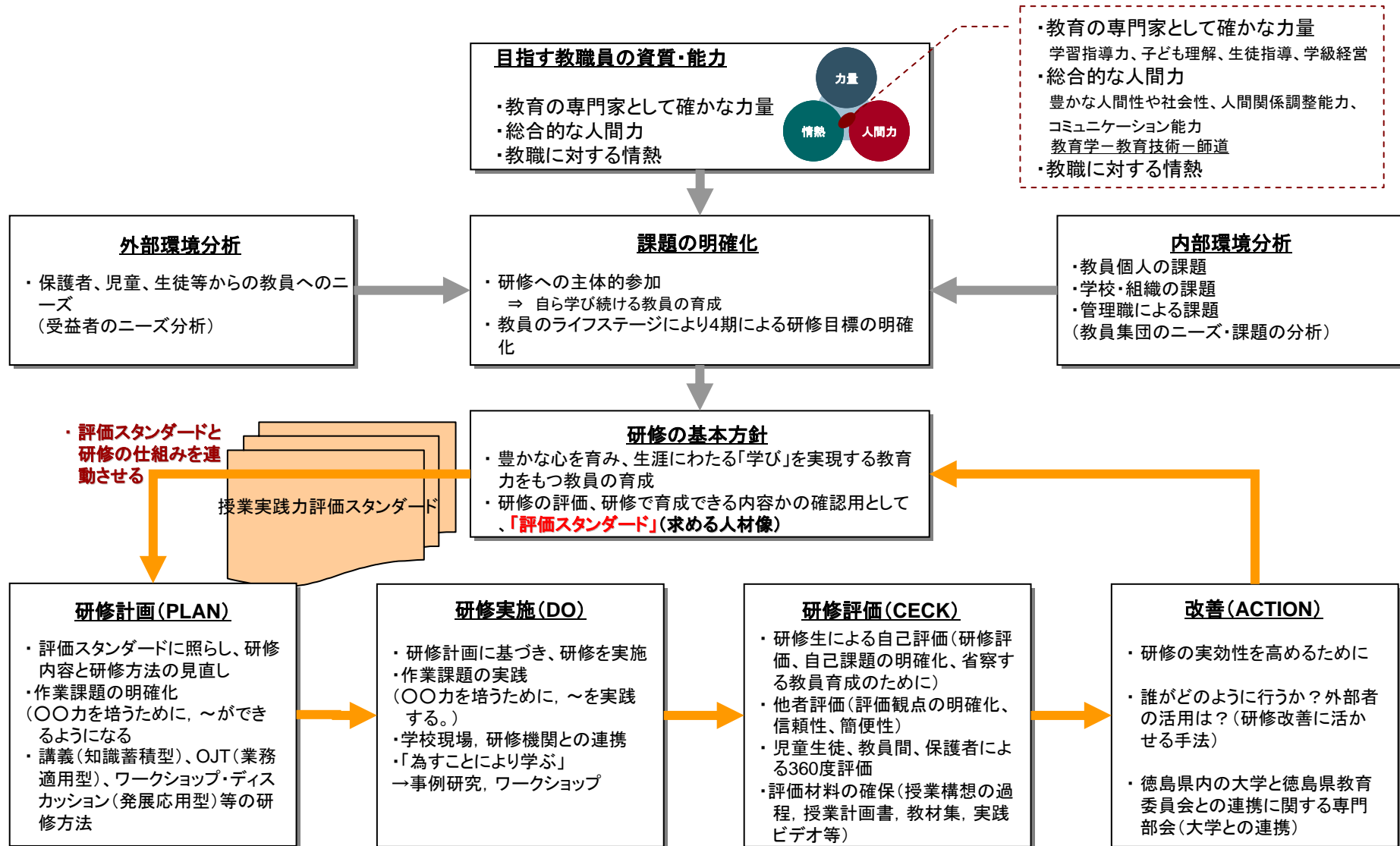
## —授業力向上研修—

社会系コース

梅津 正美

# 授業力向上のための研修評価フレームワーク

(鳴門教育大学教員研修評価・改善システム開発プロジェクトによる〔梅津一部改変〕)



## 授業実践力評価スタンダード(一部抜粋)

### 評価項目

授業力	評価項目	
I 授業構想力	1. 学習者の実態把握	
	2. 目標の分類と設定	
	3. 授業構成	1)教育内容の構成
		3)授業過程の組織
	4. 単元計画	1)単元計画の作成
		2)学習指導案の作成
		3)学習評価計画の作成
II 授業展開力	1. 基礎的・基本的な授業態度(音声・表情・所作等)	
	2. 教授活動の構成と展開	1)個や集団への配慮
		2)説明
		3)助言・指示
		4)板書
		5)教材・教具の活用
		6)演技・表現性
	3. 学習活動の喚起と促進	2)発問
		3)学習者の発言・行為への対応
		4)学習環境の構成とマネジメント
3. 学習活動に対する評価	3)学習評価法の工夫	
III 授業評価力	1. 自己の教育・社会観, 教育目標, 授業構成論, 指導法に対する省察・評価と授業改善	

[http://www.naruto-u.ac.jp/05\\_kyoumu/0555\\_gp/index.html](http://www.naruto-u.ac.jp/05_kyoumu/0555_gp/index.html)

## 段階内容

段階1	段階2	段階3	
学部3年コア科目「初等中等教科教育実践Ⅲ」終了時(教育実習開始時まで)に到達していることを求める実践力の段階	学部卒業時(初任者研修開始時まで)に到達していることを求める実践力の段階	学部卒業以降, 10年次経験者研修時まではその形成を期待する実践力の段階	

# 作業課題を明確にした研修例

—平成19年度「初等中等教科教育実践Ⅱ（社会）」—

1. 教科内容研究：歴史学研究成果をふまえて
2. 「評価スタンダード」の内容構成の論理について理解する
3. 「評価スタンダード」の段階内容の意味理解：「教育実習生授業」と「講義担当者（梅津）授業」の分析・評価を通じて第1段階・第2段階の評価内容をつかむ

※「授業実践の省察の時間」（1）

4. 現職教員の授業構成と展開の実践知に学ぶ
5. 「評価スタンダード」にもとづくマイクロティーチングを実践する
  - ①授業における説明（話法）
  - ②資料・教材の加工と活用
  - ③問いの構成
  - ④板書の内容と技法
6. 「評価スタンダード」を参照しながら実践された授業を分析・評価し、改善点を述べる。
7. 自分なりの授業力に関する「評価規準（スタンダード）」をつかみ記述する

※「授業実践の省察の時間」（2）

# 「授業実践の省察の時間」(1)



# マイクロティーチング(説明)



# マイクロティーチング（板書の仕方）





# 授業実践の省察:「知の総合化ノート」(1)

知の総合化ノート - 文書表示 - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://note.naruto-u.ac.jp/cbnote/DocViewForm.aspx?docid=1753

「初等中等教科教育実践Ⅱ(社会)」 - A4横 - (全ユーザーに見せる、全ユーザーと書く) 文書アクセス数: 57

トップ テンプレート ヘルプ ログアウト

ページ一覧

- サムネイル表示
- 教材研究
- 資料・教材の加工と活用
- 問いの構成
- 授業における説明(話法)
- 板書の仕方

**③問いの構成**

①教材研究  
②資料・教材の加工と活用

↓

SQを支える発問。一問一答など、簡単なものが多い。 SSQ

?どのタイミングで提示すれば、児童の思考を喚起できるだろうか? SSQ

**MQ**  
(メインクエスチョン)

本単元について、しっかりと子どもに考えさせることを目的とした発問。授業のメイン。

- 単元の中でどこが重要な部分であるか。本当にMQとして考え得るものなのかの吟味。
- そのMQを設定するにあたり、教師は児童や生徒にどのような力(共感的理解の育成なのか、時代背景の理解の育成なのか)を求めると明確に提示できるか。MQから導くべき目的をはっきりと設定しているのか。
- じっくりと考える時間と、考えを導くための下地(資料)が必要。

**SQ**  
(サブクエスチョン)

MQを考えるための下地をつくる発問。

- MQを考えるにあたって、児童はどこで悩むかを予想して、その手助け的な発問を考える。
- SSQとして、簡単な知識の確認、前時の復讐をすることで児童の積極的な発言と、クラス一体としての知識の共有を計る。

**導き出す回答**

- クラスのどれくらいの人数がここまでたどり着いたか。
- 上手く導き出せなかった場合、何故うまく進まなかったのかを考える。MQが難しすぎたのか。MQとSQの関係はわかりやすかったか。発問するまでに児童の理解が足りなかったのではないか→資料や、もっと多角的な知識の必要性など。
- この導き出した回答は、本時の単元の目的にそっているのだろうか。

←

「梅津正美@社会系教育」でログイン中。(ログイン数: 1)

知の総合化ノート Ver 2.00 JR四国コミュニケーションウェア Copyright (C) 2006-2008

ページが表示されました

インターネット

# 授業実践の省察:「知の総合化ノート」(2)

知の総合化ノート - 文書表示 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 印刷 検索 お気に入り

アドレス http://note.naruto-u.ac.jp/cbnote/DocViewForm.aspx?docid=1753

「初等中等教科教育実践Ⅱ(社会)」 - A4横 (全ユーザーに見せる、全ユーザーと書く) 文書アクセス数: 57

トップ テンプレート ? ヘルプ ログアウト

ページ一覧

- サムネイル表示
- 教材研究
- 資料・教材の加工と活用
- 問いの構成
- 授業における説明(語法)
- 板書の仕方

## ⑤板書の仕方

・黒板の文字の大きさはどうか？  
後ろの席の子どもには見えているのか？

・重要なポイントが視覚的に分かりやすく  
まとめてある板書になっているか？  
色チョークは活用できているのか。  
色チョークを使いすぎているのか。

・板書を消すタイミングは大丈夫か  
写せていない子どもはいないか？

・予想以上に児童の板書を写す時間が  
長い(イスラム教の授業様子より)

！なかなか授業が進まない。  
！説明しているけれど、写している児童は説明が  
聞けているのかな？

プリントを配布する、ワークシートを利用する  
等の工夫で、板書時間を短縮する？

・黒板に写真や地図を貼り、視覚的に印象付ける！  
→板書は？  
大きく印刷した白地図や図を配布するなどの工夫  
(「アジアの日本から世界の日本へ」模擬より)  
(「日清・日露とその時代」模擬より)

板書をするにしても、ずっと黒板の方を向くのでは  
なく、常に子どもを見やりながら授業の進行を。

・一字一字、書き順を間違えないように！  
特に小学校低学年は、教師の文字を参考にする  
部分が多いので、時間をかけてでも丁寧に書こう  
(付属小学校見学时より)

子どもが見やすい板書とは？  
子どもの立場に立って考えてみる

COMEXE

インターネット

「梅津正美@社会系教育」でログイン中。(ログイン数: 1)

知の総合化ノート Ver 2.00 JR四国コミュニケーションウェア Copyright (C) 2006-2008

# 「教育実践フィールド研究」の意義

- 教育実践力, なかんずく授業力と協働力(同僚性)を持った教員の養成
- 生涯にわたり学び続ける教員の養成
- 学校や地域の教育活動の支援を通じた社会貢献
- 教員養成大学教育の改善と活性化



大学院教育のコアとしての「教育実践フィールド研究」